

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092400054		
法人名	医療法人宝山会		
事業所名(ユニット名)	グループホームこがうら		
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町2688番地の5		
自己評価作成日	平成29年10月13日	評価結果市町村受理日	平成29年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2
訪問調査日	平成29年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれた閑静な住宅地にあり、施設で調理した温かい食事や一緒に作った手作りのお菓子を提供するなど、認知症の利用者様にとって家庭的な環境であり、安心して生活できる場所である。温泉による入浴、定期的に行う催し物を楽しまれるなど生き生きとした生活を送れるよう支援しています。又、、小南病院に併設された形をとっており連携体制が整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

温泉があり、海・山・緑の自然環境に恵まれている。職員は利用者一人ひとりに寄り添いながら、ゆったりとした生活が出来るように、日々支援している。事業所の理念に基づき、地域との交流にも力を入れ、毎年恒例のひな祭り、菖蒲鑑賞会は地域にだけ込んだ行事となっている。また、職員の発案で今年度初めて家族間の交流会を実施し、たこ焼き、ちらしずし、菓子作り等が好評となり、今後も継続するように企画している。利用者の個性を尊重した介護計画のもと、閉じこもることなく、持てる力が発揮できる生活を支援している。近隣に病院が併設されていることで、本人・家族の安心も得られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を事業所内に掲示し、管理者と介護職員は利用者様が地域の一人として生活していけるよう支援を行っている。	笑顔・個性・安心・協同を理念に掲げ、ミーティングや機会あるごとに共有し、入居者一人ひとりが自分らしく落ち着いて生活できる場となるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の行事に参加したり、当施設でひな祭りや菖蒲観賞会などを開催。地域の方々にも参加して頂き、楽しく交流したり、又外出の際などは笑顔で声を掛けて頂きます。	日頃から地域との交流に努めている。新聞記事等で介護に関することが掲載されていると近所の方が切り抜いて届けてくれたり、地域との交流会には犬も一緒に参加する等、地域にとけ込んだ事業所となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	催し物を通じて地域の方が気軽に施設に立ち寄り時間を共有し、認知症に理解を持って頂ければと努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の日常生活の様子や、施設の取り組みを報告し、家族様や地域の代表者様、地域包括センターからご意見を頂きサービスの向上に努めている。	2か月に1回は必ず開催し、町内会長、町の介護保険担当者、地域包括支援センター職員、併設の病院総師長の参加を得ている。最近では終末期への取組みへの意見も出され、事業所内でも話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、入居者様の状況に気を配っていただいたり、研修などの情報をもって積極的に参加している。	町の介護保険担当者には介護保険制度等について相談し、助言を得る等、気軽に答えていただける関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者と職員が身体拘束や拘束について常に認識し、研修等に参加し知識を深めている。日中は玄関の施錠はせず、散歩したり玄関先で外気浴などを行っている。	身体拘束については勉強会を実施することで職員の共通認識を図っている。入居者が帰宅願望等で気持ちの浮き沈みがみえる様子であれば、会話や足浴、ドライブ等の時間を通じて、安全面に配慮した、自由な暮らしを支えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などを通じて虐待が起こらない様に職員の意識を高める。職員同士の会話等も大切にし、ストレスをためないように十分配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加し職員全員で理解を深める		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学などにより、利用者様・家族様の疑問点をきちんと説明した上で契約を行う。状態の悪化などによる契約の締結の際も十分に説明、相談に応じる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様との面会時や電話などにて状況の報告し、意見や要望を頂き職員に伝え反映するようにしている。又利用者様との会話から意見を頂き改善要望に反映させている。	家族とは密に連絡し、情報の交換を行うことで、意見、要望を聞く機会を作っている。入居者の意見を直接聞く機会があり、また、ホールで入居者同士の会話から意向や要望を聞くことで運営に活かす取組を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案をミーティングや個々にも受け入れ、運営に活かすようにしている。	月に1回の職員会議を行い、意見を聞くように努めている。日頃からも職員間でコミュニケーションが図れており、意見等を言いやすい環境となっている。職員からの発案で今年初めて家族間の交流会が開催される等、運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年休やリフ休制度が良く活かされており、職員のスキルアップの為に協力体制があり、資格取得後の手当等も設け、職員のやる気や向上心を持ちながら働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に積極的に参加し、外部研修においても職員個々にあった研修への参加を推奨し、得た知識を職員同士で共有し合えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームこがうらが認識され、見学や紹介を頂いています。又外部研修などに参加し交流の機会を持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の状況は紹介者様や家族様より、又本人様との面接等において把握し、施設に早くなじめるよう担当を決めて身の回りの把握し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様に安心して頂けるように要望や心配事などに耳を傾け、精神的な負担を取り除き、本人様との良い関係が続けられるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時には本人様、家族様が必要と感じているサービスを又施設として必要と考えられるサービスを提案し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様には季節の行事や保存食の作り方などアドバイスして頂き、一緒に作業し楽しみのある共同生活を送れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族様の良い関係が続けられる様に行事などにも参加して頂き、来所の際は一緒にゆっくりと過ごしてもらえよう配慮し、又体調の変化や受診後は連絡を行うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の馴染みの方に会いたい場合などはできる限り出掛けられるように支援し、又来所された時はこれまでと同じように時間を過ごしてもらえよう努めている。	気に入った美容室へ出かけたり、家族と墓参りをしたり、以前住んでいた近所の方が来られる等、馴染みの関係は継続できている。祭りへ参加する等、馴染みの地域との関係も継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数の施設なので、全員が顔なじみで家族の様な良い関係を保っている。困っている様子の方には言葉を掛け合えるよう声掛けを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了し、その後近隣の病院に入院された時は定期的に面会し励ましの言葉をかけるなどしてできる範囲で支援を行うようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様や家族様の聞き取りから得られた生活歴や思い、希望の中から本人にとって何が良いのか職員全員で考え把握に努めている。	日々の関わりの中で、一人ひとりの意向や思いの把握に努めている。例えば敬老会でのお化粧や、図書館で好きな図書を借りる等、入居者本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主に家族様から今までの暮らしの状況収集をし、本人様からは折に触れ会話の中から情報を引き出し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の残存能力を把握し、できる限りその能力が保てるように日々少しの努力を楽しみとし、一人ひとりに合った過ごし方ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングと各担当者からの介護報告書により職員全員で利用者様の状況を把握し、利用者様の要望等により意見を反映した介護計画を作成している。	介護計画については職員全員で意見交換し、入居者主体のものとなるように配慮している。入居者の要望や持てる力の発揮される場面作りが反映されるよう個別の介護計画書が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の個別記録を当日関わりがあった職員が記入し、職員間で情報の共有により介護計画の見直しなどに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生じる本人様や家族様の要望に柔軟に対応し、臨機応変な支援ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の催しや子供会の行事に参加させてもらっている。又地域の美容室などもおなじみを作っている。当施設の催しにも参加してもらって楽しいひと時を過ごせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当病院を受診して主治医も当病院でお願いしているが、以前からのかかりつけ医や希望の医療機関も職員付き添いのもと受診している。	眼科、精神科、外科、歯科等へは以前からのかかりつけ医へ受診することで、本人・家族の安心が得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1程度で訪問看護があり、入居者様の健康状態の把握や相談に乗ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携しているので、入退院もスムーズで入居者様や家族様も安心して任せられ、日頃から病院との交流もあり職員も良い関係で情報交換をしてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期には病院との連携があるので、本人、家族、職員も受け入れ先がある安心感がある。その際には十分に話し合いを行い説明し支援している。	病院が併設されていることで、本人・家族は安心して入居されている。ターミナル期を迎えた入居者も居られたが体調の変化で病院で終末期を迎えるに至ったため、看取り介護はまだ行っていない。	今後長期入所に伴い、重度化や終末期を迎える入居者・家族には都度、意向を確認し、更に安心して事業所で看取りが迎えられるように、態勢が整うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、急変時の対応マニュアルがあり、それに基づいて連携の病院へ慌てることなく連絡し初期対応に応じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施し、避難訓練を行っている。機会あるごとに避難方法の話し合いを持っている。災害時の備蓄等も備えている。	消防署の協力のもと、避難訓練を行い、全職員が避難経路、避難場所を周知している。地域の協力体制については職員が個別訪問し訓練時の参加を呼び掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの性格を把握し、それぞれの人格を尊重しプライバシーを損ねることなく接するようにしている。	入浴や排泄介助の際には、特に個人のプライバシーに注意し、年長者として敬意を払い人格を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話などで要望等を読み取り、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様主体でひとり一人の個性に合わせて、日々その人らしい暮らしができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みに応じて、身だしなみを決めており、外出時には季節や気温に応じて入居者様と決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査や季節の献立を考えて、一緒に作ったり下準備や食後の後片付けなどのお手伝いをにてもらっている。	料理が得意な入居者には職員と一緒に台所に立ち、嗜好に合わせた調理を行う等、入居者の力が発揮できるように支援している。誕生日には職員手作りのケーキや寿司で食事が楽しみなものとなるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた献立を考え、常に摂取量を把握し、食事量、水分摂取量の減少には経腸栄養剤や好みの献立に変更するなどして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは声掛けし、一人で困難な方は洗面所まで同行し介助を行う。夜間帯は義歯の洗浄剤を使用し清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導にて排泄ができるように努めています。	排泄表をもとに、便秘等の発見、水分量のチェックを行い、症状に応じて対応や健康状態の把握に努め、医療に繋げている。早めの対応をすることで気持ちよく排泄ができるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には声掛けし水分補給や食物繊維を提供し、体操を取り入れ、薬も利用しながら個々の状態を把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴で温泉を一人ひとり入れ替えて気持ちよくゆったりと入浴してもらっています。体調に応じていつでも入浴可能です。	温泉のお湯がすぐに出るため、ゆっくりと入浴されたり、仲良しの二人で入浴される等、一人ひとりに合った入浴方法や言葉かけ等の工夫を行い、楽しく入浴出来る支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムを尊重しながらも、昼間はリハビリやレクリエーションなどを行い、多少の休息も取り夜間に十分休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様の薬について把握し、変更があった場合など周知し管理しています。又服薬後の変化などにも気を配っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特技や趣味を生かした役割や楽しみを感じられるよう支援することで、張り合いのある生活を送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者様の希望に沿って散歩したり、個人での外出希望は支援できるところまで行っています。地域の催し物に参加したり、入居者様と職員で出掛ける事もあります。	近所を散歩して、花や海をみたりして、地域の人たちとの会話を楽しんだり、個人の希望で買い物に出掛け支払い等も出来るような支援もしている。図書館に向いて好きな本を借りる等、一人ひとりに合った外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の申し出があれば買い物に同行し、店舗での金銭授受に触れ、金銭や所持金の残高等にも認識して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要のある場合は事務所の電話を使用している。年賀状を家族様宛に製作したり、可能な方は手紙を書く事もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔を保ち、安全に過ごせるよう配慮し、季節が感じられ落ち着いて過ごせる空間になるように心がけています	入居者が多くの時間を過ごす共用の空間は、台所から調理する音やにおいが家庭的な雰囲気をかもしだし、入居者一人ひとりが居心地よく、安心して過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースにソファを置き自由に座れるようにし、各入居者様が好きな場所で過ごされています。食卓の席は落ち着いて召し上がられるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持ち込み、安全に配慮した居室で落ち着いて居心地良く過ごして頂けるように心掛けています。	使い慣れた家具や冷蔵庫等、馴染みの物が持ち込まれた居室は、一人ひとりがその人らしく過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事を理解して、できる事はして頂き、その人に合った安全な行動ができるように支援している。		